

理科室だより

第2号
発行日
2010年5月14日

発行者
長野県小川小学校
松本 徳重

考えることを大切に

こんなことがありました。

「予想を考えて」と、課題の提示をしました。すると子どもが言うのです。

「間違えてもいいですか？」

「違っていると思うけどいい？」

などと、おそろおそろ発言するのです。そこでこんな話をしました。

「よそう」と板書し、読ませました。

「よ・そ・う」と、大声で読む。次に、「逆からよんで」と指示。子どもたちは声をそろえて読む。

「う・そ・よ」

そこで説明しました。



予想は「よ・そ・う」です。今読んだように「う・そ・よ」と、間違えてもいいんです。よ〜く考えてみるのが大切です。正しい答えだけをいい合うのであれば、学校に来なくてもいいんです。間違えるから、わからないことがあるから、学校に来てみんなで教え合って学んでいくのです……。

「学校は間違えるところだ」という詩があります。私の好きな詩のひとつです。

「教室はまちがうところだ」

蒔田 晋時

教室は まちがうところだ

みんなが どしどし手をあげて

まちがった 意見を言おうじゃないか

まちがった 答えを言おうじゃないか





まちがうことを おそれちゃいけない
まちがうことを わらっちゃいけない

まちがった意見も まちがった答えも
ああじゃないか こうじゃないかと
みんなで出しあい 言いあう中で
ほんとのものを みつけていくのだ
そしてみんなで のびていくのだ
(長いので以下略)

そんなことを考えて授業をしようと思っています。まず、「考える」そして「考える」さらに「考える」ことを理科の授業では大事にしたい、と考えています。ともすると「考えるが面倒くさい」「先生！答え教えて！」と、いう子もなかにはいます。これでは、物事の解決に繋がりません。「考えて、考えて、さらに考える」ことが、学校教育の中では大事にしなければならないことの一つだと思います。

ヒマワリとヘチマを植えた

3年生はヒマワリとホウセンカを植えました。子ども達が一生懸命に穴を掘って、そこに腐葉土を入れて植え付けました。でもこの天候が心配です。寒かったり、暑かったりで、気候の変動が激しくてなかなか芽が出てきません。まあ、きながに待つことにしていますが・・・でも、心配です。



(植えたヘチマとヒマワリ)

返ってきたのです。注文しないと「ヘチマの苗」は、小川村には売っていないことも初めて知りました。初めてのことばかりで戸惑っているこの頃です。

支柱を立てました。これでヘチマも大丈夫かもしれません。昨年も「理科だより」に書きましたが、全国的には「ゴウヤ」です。長野県だけが「ヘチマ」です。村内の店で「ヘチマの苗はいつ入荷するのですか？」とたずねました。すると「ヘチマの苗は入荷しません」という返事が

